

甲斐市立敷島北小学校 自己評価書（前期）

平成27年6月30日 作成

校長 秋山 均

記述者 職名（教頭） 河西 慶仁

学校教育目標 「ともに学び ともに生きる 心豊かな子どもの育成」

- 知育 ・よく学び、よく考える子ども
- 徳育 ・思いやりのある子ども
- 体育 ・健康でたくましい子ども

学校経営方針

※基本：教師個々の資質・能力の向上と連帯と信頼による組織力の発揮

- 1 全職員が常に学校目標を意識するとともに、めざす「子ども像」「学校像」「教師像」を念頭におき、その具現化に向けた教育実践に取り組む。
- 2 明確なビジョンを持ち、目標に向かって確実な取り組みを展開する。
- 3 P D C Aサイクルを生かし、課題を明らかにして大胆な工夫や改善をしながら、より質の高い教育活動を構築する。
- 4 意欲的に研修・研究に取り組み、専門職としての資質能力の向上に努める。
- 5 特色ある学校づくり、信頼される学校づくりの実践に努める。

1 全体評価

【教職員の自己評価から】

・ほとんどの項目で「A評価」又は「B評価」であった。「C評価」がしたのは、II 8「校内研修に主体的に関わっている」、IV 2「児童の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる」、IV 3「キャリア教育を行っている」、IV 4「問題行動の早期発見・早期対応ができています」、IV 7「日頃から家庭との連携が図れるように努めている」、V 1「地域の教育力を生かす指導を行っている」、V 2「保護者や地域の願いに応えるため、情報収集を行っている」、VI 3「積極的に読書活動に取り組む指導に努めている」の8項目あったが、D評価はなかったことから総合的に判断すると、概ね良好な結果が表れている。

・前回から「A評価」が10ポイント以上向上したのは、全50項目中28項目で、その中でも、前々回から毎回向上し続けている項目は9項目あった。これは、職員が意識して取組を続けていることが、数値に表れているものと思われる。

その9項目を具体的に見てみると、

- III 1 「民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている」（+17）
- III 2 「学びの意欲を喚起する授業を行っている」（+23）
- III 4 「個に配慮した授業を行っている」（+19）
- III 5 「評価規準と評価方法を明確にした授業を行っている」（+24）
- V 1 「地域の教育力を生かす指導を行っている」（+15）
- V 2 「保護者や地域の願いに応えるため、情報収集を行っている」（+24）
- V 4 「PTA活動に主体的に参加している」（+11）
- V 5 「保護者はPTA活動に協力的である」（+10）
- VI 1 「児童が進んで挨拶をするよう、指導に努めている」（+13）

凡例

前々回

平成26年 6月実施

A：そう思う

前回

平成26年12月実施

B：ややそう思う

本校職員

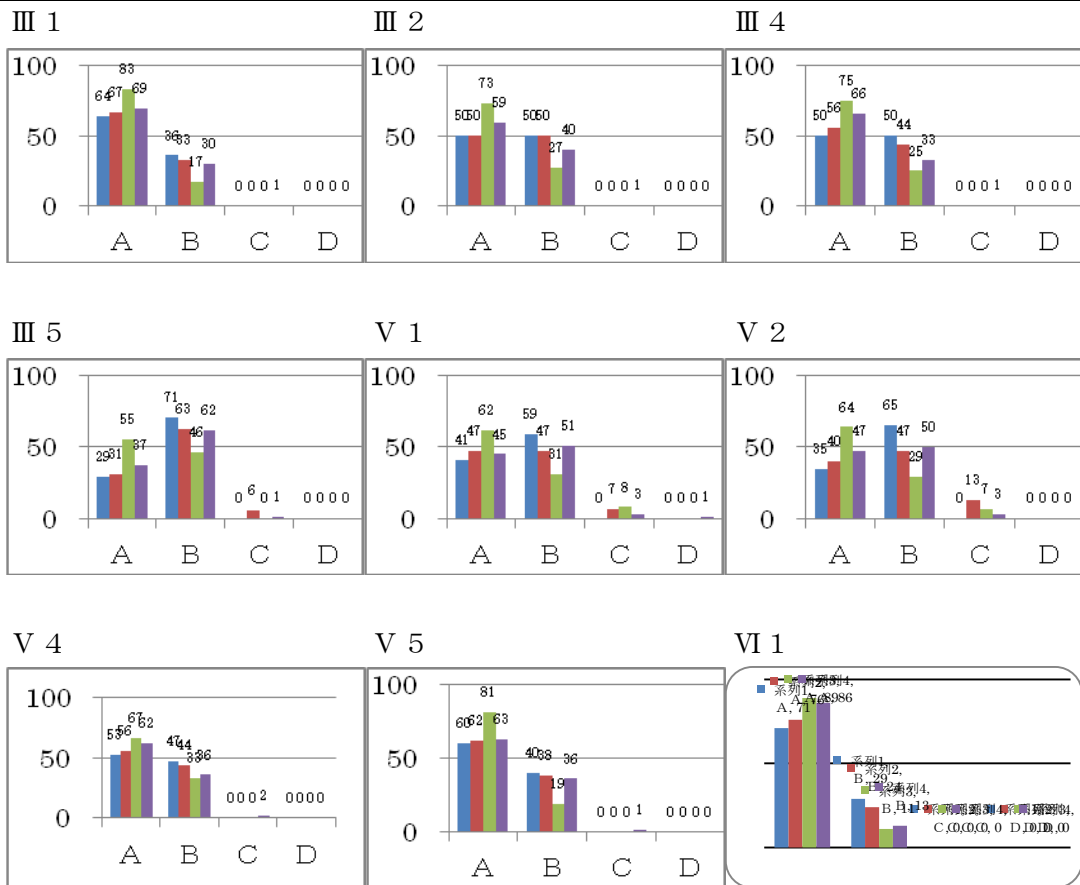
平成27年 6月実施

C：ややそう思わない

市全体

平成27年 6月実施

D：そう思わない

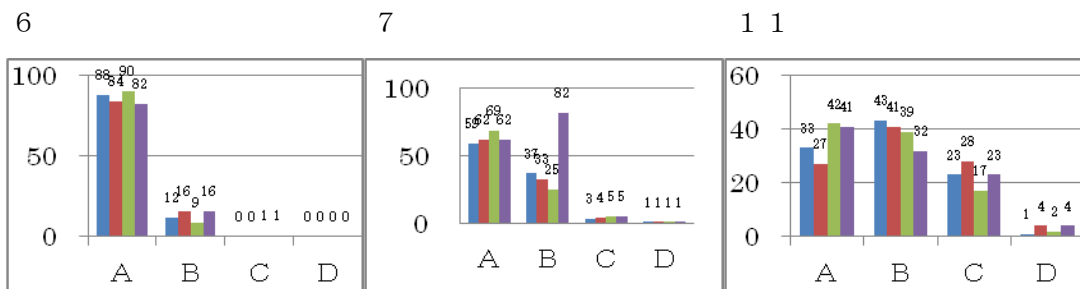


であった。反対に、前回から10ポイント以上上がったものはなかった。

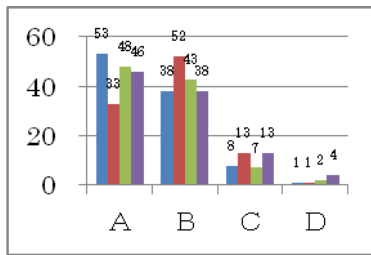
・「A・B評価」を合わせると、ほぼ「よい」という判断が下されているものと思われるので、さらにこれからの取組を大切にしたい。

【児童アンケートから】

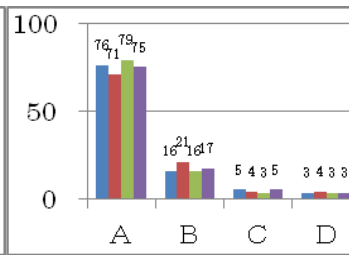
- ・前回より「A評価」が5ポイント以上上がったものは、
- 6 「先生はよく勉強を教えてくれる」 (+7)
- 7 「国語の授業の内容がわかる」 (+7)
- 11 「授業中に質問や意見を言っている」 (+15)
- 13 「学校以外で学年の目標の時間の勉強をしているか」 (+15)
- 20 「将来の夢や目標を持っている」 (+7)
- 26 「先生や友達の話をしっかり聞いているか」 (+13)
- 27 「自分の考えを先生や友達にしっかり話しているか」 (+10)



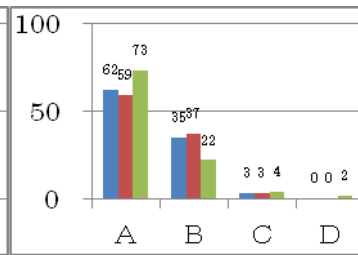
1 3



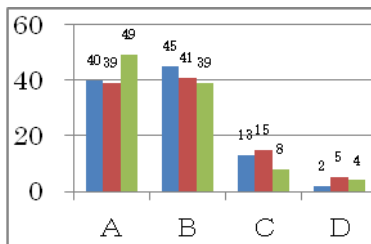
2 0



2 6



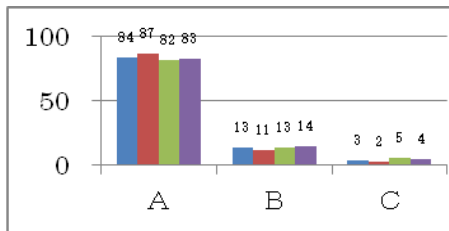
2 7



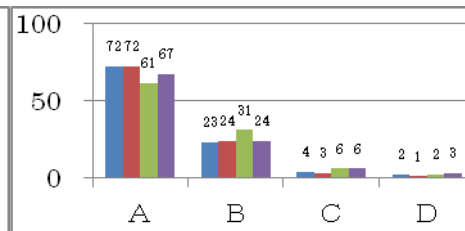
の7項目であった。

- ・前回との比較で「A評価」が5ポイント以上下がった項目は、次の2つであった。
3 「困ったときに相談できる友達がいるか」 (-6)
1 2 「宿題を忘れずにしているか」 (-10)

3

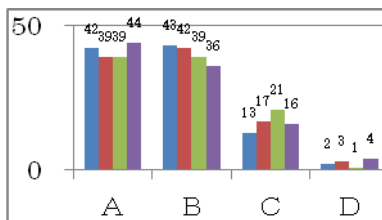


1 2

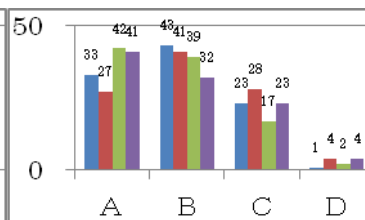


- ・「C・D評価」の割合が高いのは、次の3項目であった。
9 「授業でわからないことがあったら先生に聞いているか」 (22%)
1 1 「授業中に質問や意見を言う」 (19%)
1 6 「今住んでいる地域の行事に参加しているか」 (20%)

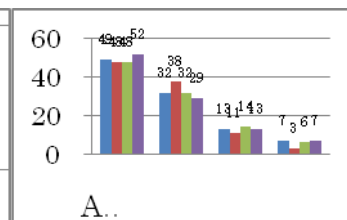
9



1 1



1 6



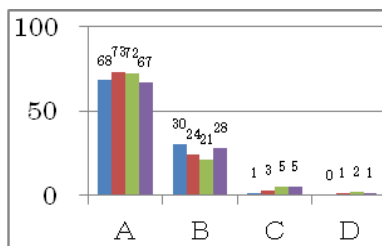
自分の思いや考えを公表（表現）する児童が増えた反面、自信がない児童がまだ存在していることが数値に表れている。地域でのふれあいの機会が少なくなっているという実態も考慮しながら、本校で力を入れて取り組んできている課題であるので、今後も家庭や地域と連携した実践を積み重ねていく必要がある。

・市全体との比較で、「A評価」が市全体を上回っているものは16項目で、低かったのは5項目であった。

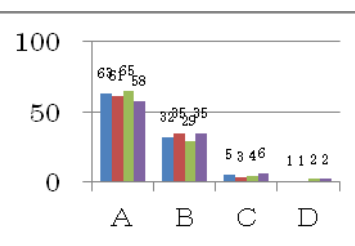
特に、市との比較で「A評価」が5ポイント以上高かった項目は、

- 1 「学校は楽しい」 (+6)
- 5 「学校の授業が楽しい」 (+7)
- 6 「先生はよく勉強を教えてくれる」 (+8)
- 7 「国語の授業の内容がわかる」 (+7)
- 10 「こまったことがあったら相談できる先生がいる」 (+8)
- 18 「地域の人に出会ったらあいさつをしている」 (+13)
- 21 「学校のきまりや約束ごとが守れているか」 (+13)
- 22 「清掃活動がしっかりできているか」 (+6)

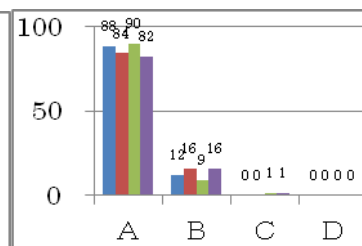
1



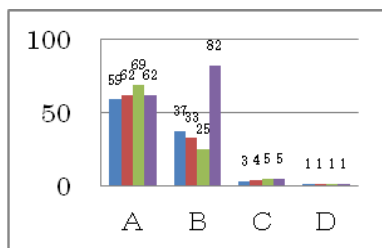
5



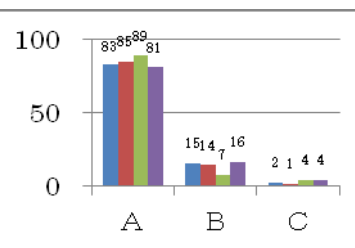
6



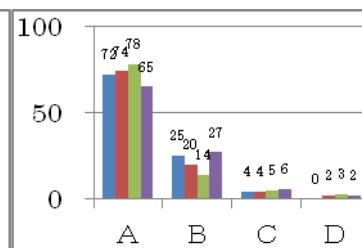
7



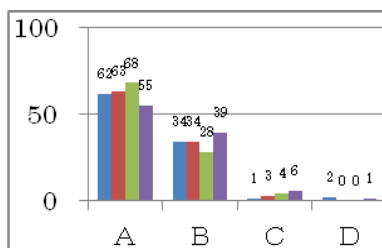
10



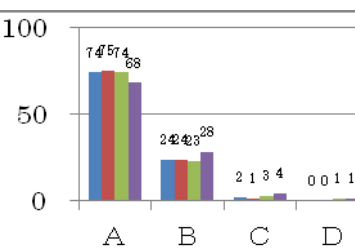
18



21



22



の8項目であった。

「あいさつ」は、ここ数年、本校が重視してきた項目であったので、今後も定着するように取組を続けていきたい。

「学校が楽しい」「授業が楽しい」、「先生はよく勉強を教えてくれる」「こまったことがあったら相談できる先生がいる」で高評価となっていることから、教職員と子どもたちとの良好な関係が構築されていることがうかがえる。反面、「C・D評価」の児童も少数だが存在するので、今後も全校職員が情報を共有し、一丸となつての取組が必要である。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	II 学校運営について
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年度の初めに、学校長から学校教育目標の提案が行われた。校長の経営方針の下、使命感を持って意欲的に職務を果たそうとする職員集団であり、充実した教育活動が展開された。 ・新しい校務分掌でスタートした1学期は、昨年度からの改善点などを確認しながらの実践となり、慎重になりすぎるあまり、ややスピード感に欠けた教育活動となった。 ・校務分掌に関しては、学級数減（児童数減）による職員数の減があり、複数の職務を掛け持ちしなければならない状況があり、仕事量との増大と忙しさに拍車がかかっている。 ・「いじめ防止基本方針」について、全職員で共通理解を図った。また、「防災（防犯）マニュアル」を見直し、危機管理に対する教職員の意識を高めるように努めている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員で学校教育目標の共通理解を図り、教育活動が行われてきたが、今後も、個々の役割を一層明確にし、職員会議だけではなく、朝礼や終礼の機会を利用し、職員間の連携を図りながら学校運営をしていく。 ・P D C Aサイクルの実行に関しては、これまでどおり各行事等の終了後にアンケートを実施し、課題を明確にした上で、次の計画に生かすよう努める。
III 学習指導について（児童用アンケートの結果も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の自己評価で、III 2「学びの意欲を喚起する授業を行っている」、「個に配慮した授業を行っている」、「評価規準と評価方法を明確にした授業を行っている」及び「地域の教育力を生かす指導を行っている」の項目については、「A評価」が前回から10ポイント以上向上し、昨年度と比較しても毎回良い結果となっている。児童のアンケートの6「先生はよく勉強を教えてくれる」及び「国語の授業の内容がわかる」でも、「A評価」が前回よりもそれぞれ7ポイント上がっており、教師が意識して授業改善に取り組んできている様子が数値に表れている。 ・児童のアンケート11「授業中に質問や意見を言っているか」については、市全体を上回り、ここ数年取り組んできた成果が表れてきている。また、本校オリジナルの「先生や友達の話をしっかり聞いているか」及び「自分の考えを先生や友達にしっかり話しているか」の項目も10ポイント以上の向上が見られた。自分から進んで質問や意見を言うことを意識するようになった児童の傾向がうかがわれる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の場面や学校生活全般において、本校児童は、積極性に欠けると言われてきたため、これまで、校内研究のテーマに「豊かな表現力の育成」を掲げ、研究・実践に取り組んできた。自分の考えを発表する機会を増やし、子ども達の考えを引き出すという日々の実践が成果を上げてきているが、まだ、一部の児童には積極性が見られないこともあり、継続した取組が必要である。 ・学校全体として「家庭学習」の定着を目指す取組を続けている。今年度も職員会議で共通理解を図り、学年の目安として、「学年×10+10分くらい」の家庭学習の時間を設定し、年度の初めに「家庭学習の手引き」として全児童・全世帯へ配布している。取組が始まって5年目を迎えるが、家庭学習の「学年の目標時間」を9割以上の児童が達成している反面、「宿題を忘れずにしているか」の項目では、前回よりも10ポイント以上下回り、市全体との比較でも「A評価」が低く、今後とも家庭と連携して指導を継続し、この項目の結果を見守っていききたい。

IV 生徒指導について（児童用アンケート結果も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「生き方教育（キャリア教育）」については、学年ごとの年間指導計画を教育課程に組み入れ、計画的な指導をすることが再確認されて、「A評価」が昨年度から徐々に上がり、市全体の結果も上回っている。しかし、「C評価」もある。 ・「児童の規範意識をはぐくむ指導」及び「問題行動の早期発見・早期対応」については、前回より「A評価」が高くなってきているが、市全体と比べると、まだ低い。 ・自己評価アンケートの「児童生徒に進んで挨拶をするよう、指導に努めている」と児童のアンケート「地域の人に出会ったらあいさつをしている」の項目で、いずれも「A評価」が昨年度より向上し、市全体よりも高く、数年間の取組の成果が表れている。 ・児童のアンケート「学校のきまりや約束ごとを守っている」、「清掃活動をしっかりしている」及び「委員会活動にしっかり取り組んでいる」の項目で市全体よりも「A評価」が高く、本校児童のまじめに物事に取り組もうとする姿勢が数値に表れている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育」については、常に全体計画や学年ごとの年間指導計画を意識し、学校教育全体で行われるようにし、全職員が自信を持って取り組めるように情報の共有をしていく必要がある。 ・家庭や関係機関との連携が図られるよう、これまで以上に情報を整理し、生徒指導部会や特別支援教育校内委員会等で組織的に対応していく。
V 地域との連携について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、PTAを始めとして、地域の方々やおやじの会、母親の会など、多くの方々のご支援やお力添えをいただいている。V1「地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている」とV2「学校に対する要望や意見を聞く機会や情報収集を行っている」の項目で、昨年度よりも「A評価」が高くなってきている。保護者や地域の協力体制については、市全体と比較して高いと言える。 ・自己評価アンケートのV5及びV7の項目で、保護者は、PTA活動、学習指導や生活指導に協力的であると感じていて、市全体よりも「A評価」の割合が高い。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・担任は、学年部会や家庭訪問、個別懇談などのあらゆる機会に保護者や地域の意見を聞き必要に応じて電話連絡や個別の訪問等も行い、保護者との情報交換に努めてきた。これからも、よい関係が保てるような校内体制を築いていきたい。 ・引き続き学校だよりやホームページを使って、学校の教育活動を地域や保護者に知らせていく。これまでどおりホームページの更新に努め、タイムリーな話題を載せるようにする。また、親しみを持てるように内容をさらに工夫していく。担当だけに負担がかからないように、全職員で題材の提供や取材の協力を行っていく。
VI 学校の特色に関して（児童用アンケート結果も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の特徴の一つであるスクールバスの運行についても、日課の運営上は支障とならず、学校の日課が適切に進められているといえる。 ・読書活動に関して、児童の読書に対する気持ちも前向きで、9割の児童は、読書が好きと答えているが、「C・D評価」が1割いる。 ・児童18「地域の人と出会ったらあいさつをしているか」では、前回よりA評価が増えて78%となり、市全体よりも13ポイントほど上回った。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、図書だより等を通して、保護者に対しての情報や意識改革のための資料提供を行ったり、夏季休業中に「おうち読書」の取組をしたりする。 ・あいさつに関しては、防犯パトロール隊役員会や地区懇談会等、地区や保護者対象の会議の折りに「声かけ・あいさつ運動」の推進をお願いしてきた。引き続き、大人が見本となるよう協力をお願いするとともに、児童会の「あいさつ運動」と連携して指導していく。

3 まとめ

〈成 果〉

・昨年度の学校評価から、次の項目について、改善する必要がある課題として上がっていた。

- ①「職員間の情報共有と組織的な対応」
- ②「積極的な児童の育成」
- ③「家庭学習の時間の定着」
- ④「保護者・地域との連携」

- ・①については、職員間で情報共有に努め、迅速に対応していくことが、重要であると全職員が認識し、取り組んでいる。
- ・②については、これまで校内研究などで取り組んできた、「豊かな表現力」をさらに多くの児童に意識して授業に参加できるように、各担任が支援に入る教師とともに取り組んできた。その結果、「授業中に質問や意見を言っている」「学校以外で学年の目標の時間の勉強をしている」の項目で児童のアンケート結果からは、前回よりも高い評価となっている。
- ・③については、本年度も「家庭学習のてびき」を家庭へ配布するとともに、学年・学級懇談や個別懇談等の話題として取り上げ、引き続き家庭の協力を得ながら、学習習慣の定着を図るように務めている。学習時間や内容を工夫する児童が増えたものの、宿題や自主学習に積極的に取り組めない児童が少数ではあるが各クラスに少人数存在する。担任は学習の内容を常に工夫し、意欲的に取り組めるよう努めている。
- ・④については、単級の学年が増え、職員一人の仕事量が増えている中、担任が多角的な視野を持つよう努め、保護者との日々の電話や連絡帳のやりとり等からも情報を得るように常に意識している。

〈課 題〉

・後期に向けて、次のことに重点的に取り組む。

- ①本年度、本校は「実践的防災教育推進事業」の指定を受けているので、危機管理マニュアルの共通理解を図るとともに、安全教育を推進し、「命を守り、生きる力を身につける子どもの育成」に取り組む。
- ②「家庭学習のてびき」の取組を定着させることと、「していない」と回答した児童について、家庭と連携しながら指導し、学力の向上を目指す必要がある。
- ③「授業中に質問や意見を言っている」児童は増えたものの、「授業（勉強）でわからないことがあったら先生に聞ける」で、市全体よりも「A評価」が低いので、これまで取り組んできた「豊かな表現力の育成」の指導に引き続き取り組んでいく。
- ④現段階では、不登校傾向の児童はいないが、きめ細かな生徒指導を行い、「楽しい学校づくり」を推進していく。特に「クラス（学年）に仲良く遊ぶ友達がいない」、「困ったときに相談できる友だちがいない」と回答した児童が少数ながら存在することから、日々の観察から得た情報とともに「Q-U検査」等の結果も参考にしながら学級経営をしていく。